

日経メディカル ON LINE

【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

調査結果報告書

2010年4月

株式会社日経メディカル開発

## 日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

### < 調査概要 >

調査対象：日経メディカルON LINE 登録医師

調査期間：2010年3月30日(火)～3月31日(水)

調査主体：日経メディカル開発

調査機関：日経BPコンサルティング

調査方法：日経メディカルON LINE登録医師に調査依頼メールを配信、回答画面にアクセスし回答

調査謝礼：回答者全員に300ポイント

有効回答：321名

Q1 日常診療の中で漢方を処方していますか。 (ひとつだけ)			
全体	処方している	過去に使用したことはあるが今は使用していない	処方していない
321	277	32	12
100.0%	86.3%	10.0%	3.7%

上段：実数  
下段：%

Q2 1日平均何人の患者さんに漢方を処方されています(いました)か。								
全体	5人以下	6人～9人	10人～15人	16人～20人	21人～25人	26人～30人	31人以上	無回答
309	205	54	30	5	4	4	6	1
100.0%	66.3%	17.5%	9.7%	1.6%	1.3%	1.3%	1.9%	0.3%

上段：実数  
下段：%

Q3 一日の診療の中で漢方のみを処方している患者さんは何人くらいいます(いました)か。(ひとつだけ)								
全体	5人以下	6人～9人	10人～15人	16人～20人	21人～25人	26人～30人	31人以上	無回答
309	286	13	5	0	1	1	0	3
100.0%	92.6%	4.2%	1.6%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	1.0%

上段：実数  
下段：%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q4. 漢方を処方する際の基本方針は、どうされています(いました)か。  
(最も近いものをひとつだけ)

全体	疾患によっては漢方薬を第一選択にする	最初に西洋薬を使い期待した効果が得られないとき漢方薬を併用するか、漢方薬に切りかえる	第一選択に漢方薬を処方するが西洋薬との併用が基本	第一選択薬として漢方薬を単独投与する	患者の希望があったときのみ漢方薬を使う	無回答
309 100.0%	151 48.9%	97 31.4%	24 7.8%	0 0.0%	35 11.3%	2 0.6%

上段:実数  
下段:%

Q5. 漢方を処方するのは、具体的にどのような疾患・症状です(でした)か。(いくつでも)

全体	感冒・急性上気道炎	こむらえり	便秘	食欲不振、胃もたれ、消化不良など消化器愁訴	更年期障害	咳、痰	冷え(性症)	イレウス	鼻炎
309 100.0%	211 68.3%	144 46.6%	134 43.4%	108 35.0%	107 34.6%	94 30.4%	89 28.8%	81 26.2%	81 26.2%

Q5. 上段からの続き

自律神経失調症	インフルエンザ	認知症及び周辺症状	過敏性腸症候群	機能性ディスペプシア	神経痛	頭痛、めまい	腰痛症、関節痛	頻尿、尿路不定愁訴
77 24.9%	69 22.3%	54 17.5%	51 16.5%	50 16.2%	47 15.2%	44 14.2%	43 13.9%	32 10.4%

上段:実数  
下段:%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q6. 漢方薬を第一選択とする疾患はどのようなものです(でした)か。(いくつでも)

全体	こむらがえり	感冒・急性上気道炎	更年期障害	冷え(性症)	便秘	イレウス	食欲不振、胃もたれ、消化不良など消化器愁訴	自律神経失調症	咳、痰	鼻炎	認知症及び周辺症状	インフルエンザ	月経前緊張症、月経痛	機能性ディスペプシア
309 100.0%	116 37.5%	87 28.2%	57 18.4%	44 14.2%	43 13.9%	43 13.9%	32 10.4%	30 9.7%	23 7.4%	20 6.5%	19 6.1%	18 5.8%	16 5.2%	15 4.9%

上段:実数  
下段:%

Q7. 漢方を処方するようになった動機は何です(でした)か。(いくつでも)

全体	学会などで漢方薬の科学的根拠(エビデンス)が相次いできたから	ガイドラインなどに漢方薬が明記されるようになったから	西洋薬のみの治療では限界があるから	高齢者など複数疾患を抱えた患者が増えたから	患者のQOLを高め全人的医療が出来るから	患者からの強い要望があったため	生活習慣病などの疾病の進展が抑制できるから	医療経済的に見て薬剤費の節減になるから	その他	無回答
309 100.0%	107 34.6%	38 12.3%	158 51.1%	66 21.4%	50 16.2%	76 24.6%	11 3.6%	7 2.3%	24 7.8%	4 1.3%

上段:実数  
下段:%

Q8. 漢方薬としてよく使う方剤は何です(何でした)か(いくつでも)

全体	葛根湯	大建中湯	芍薬甘草湯	小青竜湯	補中益気湯	六君子湯	抑肝散	牛車腎気丸	加味逍遥散	麦門冬湯
309 100.0%	217 70.2%	155 50.2%	152 49.2%	125 40.5%	125 40.5%	113 36.6%	82 26.5%	80 25.9%	77 24.9%	74 23.9%

上段:実数  
下段:%

Q8. 上段からの続き

当帰芍薬散	麻黄湯	八味地黄丸	十全大補湯	半夏厚朴湯	防風通聖散	五苓散	小柴胡湯	桂枝茯苓丸	大黄甘草湯
62 20.1%	60 19.4%	58 18.8%	58 18.8%	56 18.1%	56 18.1%	55 17.8%	52 16.8%	49 15.9%	38 12.3%

上段:実数  
下段:%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q9. 漢方薬を処方された総合評価についてお伺いします。  
(ひとつだけ)

全体	良かった	どちらとも いえない	よくなかつ た	無回答
309	218	87	3	1
100.0%	70.6%	28.2%	1.0%	0.3%

上段:実数  
下段:%

Q10 その理由は何でしょうか。(いくつでも)

全体	薬物療法 の選択の 幅が広が った	治療効果 が上がり 患者に喜 ばれた	新しい治 療体系を 体得できた	副作用が 減った	患者が増 えた	病医院の 評判が高 くなった	その他	無回答
219	162	159	63	31	5	7	1	1
100.0%	74.0%	72.6%	28.8%	14.2%	2.3%	3.2%	0.5%	0.5%

上段:実数  
下段:%

Q11. 高齢者(後期高齢者)はほとんどが多臓器疾患を抱えており、患者を横断的、全体的に診る漢方の役割は大きいといわれていますが、これに対してどのようにお考えですか。(ひとつだけ)

全体	全ての患 者に大き な役割が 期待され る	患者によ っては期 待できる	余り期待 されないと 思う	ほとんど 期待され ないと思 う	わから ない
321	24	254	19	11	13
100.0%	7.5%	79.1%	5.9%	3.4%	4.0%

上段:実数  
下段:%

Q12. 現在、全国の大学医学部、医科大学で漢方医学の教育が行われています。さらに充実させるためにはどのようにすれば良いとお考えですか。(いくつでも)

全体	必須科目 として教 育する	漢方医学 教育の標 準化	漢方の基 本、代表 的処方の 運用のた め臨床実 習の検討	共用試験 に漢方を 取り入れ る	国家試験 に漢方を 導入	その他
321	74	205	149	18	26	21
100.0%	23.1%	63.9%	46.4%	5.6%	8.1%	6.5%

上段:実数  
下段:%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q13. 前期、後期臨床研修を通じ質の高い専門医の養成が指摘され「総合医」も専門医と位置づけるべきとの考えがあります。総合的な診療を行う「総合医」には漢方医学に通じるところがあり注目されていますが、どのよう思われますか。  
(ひとつだけ)

全体	総合医には漢方の知識が必須と思う	総合医を標榜するのなら漢方の知識はあったほうがよい	総合医と漢方の知識はあまり関係ないと思う	総合医と漢方の知識は全く関係ないと思う	わからない	無回答
321 100.0%	71 22.1%	181 56.4%	45 14.0%	12 3.7%	11 3.4%	1 0.3%

上段:実数  
下段:%

Q14. 最近の動きとして漢方、健康補助食品やハーブ療法、食餌療法、鍼灸、柔道整復、あんま、指圧、音楽療法など相補・代替医療について、統合医療としての科学的根拠を確立していこうとする動きがあります。これについてどう思われますか。  
(いくつでも)

全体	これらのカテゴリーや文化の異なるものを全て統合医療としてまとめるのは、無理がある	漢方は、日本ではすでに現代医療の中に入り、近年一部に科学的根拠(EBM)も構築されているので、これらとは分けた方がよい	漢方は西洋医学で対応できない疾患に評価が高まっている	日本古来の伝統医学を現代医療の中に入れていくことはいいこと	その他	無回答
321 100.0%	146 45.5%	133 41.4%	87 27.1%	64 19.9%	7 2.2%	1 0.3%

上段:実数  
下段:%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q15. 「今、医療で求められているのは西洋医学と漢方医学の融合」といわれています。この点に関しどのようにお考えですか。(最も近いものをひとつだけ)

全体	各疾患に対し最も応じたい診療を進めるために融合が進むべきだ	副作用軽減など患者負担を軽減するために融合が進むべきだ	もっと漢方のEBMが示されるなら融合が進むべきだ	現状程度の融合で十分	融合は進むべきではない	その他	無回答
321 100.0%	93 29.0%	46 14.3%	144 44.9%	29 9.0%	7 2.2%	1 0.3%	1 0.3%

Q16. 昨年米国消化器病週間(DDW)で漢方に関する演題が数多く取上げられ、米国の権威ある雑誌Surgery誌のオンライン版に大建中湯の作用機序が発表されるなど、漢方は海外でも評価され始めました。漢方が今後更に普及するには、何が必要とお考えですか。(いくつでも)

全体	漢方医学教育の更なる充実講座数の増加	漢方外来の充実	医師国家試験の漢方分野の出題の義務化	医療経済学的な面での研究推進	科学的エビデンス(EBM)のさらなる構築	その他	無回答
321 100.0%	129 40.2%	53 16.5%	20 6.2%	39 12.1%	249 77.6%	9 2.8%	1 0.3%

上段:実数  
下段:%

日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

Q17. 今年2月に厚生労働科学研究班が「漢方などを活用した日本型の医療創生」のため下記のような項目を挙げて提言しました。この中で実施の優先度の高い順に番号を入れてください。【1番目】

全体	1. 科学的データの収集と解析、エビデンスの構築	2. 国家試験に漢方を含める	3. 卒前教育、卒後研修の充実	4. 人材の育成、専門医、指導医の養成	5. 生薬原料の確保	6. 国際展開も踏まえ、国家戦略見地から政府主導で対応	7. 国民への知識の普及、啓発	無回答
321 100.0%	262 81.6%	4 1.2%	13 4.0%	21 6.5%	5 1.6%	5 1.6%	11 3.4%	0 0.0%

上段:実数  
下段:%

Q17. 今年2月に厚生労働科学研究班が「漢方などを活用した日本型の医療創生」のため下記のような項目を挙げて提言しました。この中で実施の優先度の高い順に番号を入れてください。【2番目】

全体	1. 科学的データの収集と解析、エビデンスの構築	2. 国家試験に漢方を含める	3. 卒前教育、卒後研修の充実	4. 人材の育成、専門医、指導医の養成	5. 生薬原料の確保	6. 国際展開も踏まえ、国家戦略見地から政府主導で対応	7. 国民への知識の普及、啓発	無回答
321 100.0%	22 6.9%	9 2.8%	72 22.4%	128 39.9%	28 8.7%	23 7.2%	37 11.5%	2 0.6%

上段:実数  
下段:%

Q17. 今年2月に厚生労働科学研究班が「漢方などを活用した日本型の医療創生」のため下記のような項目を挙げて提言しました。この中で実施の優先度の高い順に番号を入れてください。【3番目】

全体	1. 科学的データの収集と解析、エビデンスの構築	2. 国家試験に漢方を含める	3. 卒前教育、卒後研修の充実	4. 人材の育成、専門医、指導医の養成	5. 生薬原料の確保	6. 国際展開も踏まえ、国家戦略見地から政府主導で対応	7. 国民への知識の普及、啓発	無回答
321 100.0%	15 4.7%	12 3.7%	90 28.0%	91 28.3%	19 5.9%	24 7.5%	64 19.9%	6 1.9%

上段:実数  
下段:%



# 日経メディカル ON LINE 【漢方使用実態及び漢方に関する意識調査】

< Face Sheet >

FC1. 年齢						
全 体	30歳以下	40代	50代	60歳以上	無回答	平 均
321	78	130	91	17	5	46.07
100.0%	24.3%	40.5%	28.3%	5.3%	1.6%	

上段:実数  
下段:%

FC2. 診療所・病院別				
全 体	診療所 医師	病院 医師	その他	無回答
321	91	222	7	1
100.0%	28.3%	69.2%	2.2%	0.3%

上段:実数  
下段:%